# Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructure

**おもな機能と利点**

Oracle WebLogic Server Enterprise Edition for Oracle Cloud Infrastructure（UCM）

- ユニバーサル・クレジット料金請求モデル
- OCPU利用時間に基づいた構成別の価格設定
- Java EEの完全サポート
- クラスタリングによる高いパフォーマンス、スケーラビリティ、可用性
- Oracle WebLogic Server管理ツール

Oracle WebLogic Suite for Oracle Cloud Infrastructure（UCM）

- ユニバーサル・クレジット料金請求モデル
- OCPU利用時間に基づいた構成別の価格設定
- 上記のEnterprise Edition機能に次の機能を追加
- Active GridLink for RAC
- Oracle Coherence Enterprise Edition

Oracle WebLogic Server Standard Edition for Oracle Cloud Infrastructure（BYOL）

- Bring Your Own Licenseモデル
- Oracle WebLogic Server Standard Editionライセンスの権利

Oracle WebLogic Server Enterprise Edition for Oracle Cloud Infrastructure（BYOL）

- Bring Your Own Licenseモデル
- Oracle WebLogic Server Enterprise Editionライセンスの権利

Oracle WebLogic Server Standard Edition for Oracle Cloud Infrastructure（BYOL）

- Bring Your Own Licenseモデル
- Oracle WebLogic Suiteライセンスの権利

*Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructureは、Oracle Cloud内で稼働するOracle WebLogic Serverアプリケーションの開発とデプロイに適したソリューションです。Oracle Cloud Infrastructure仮想マシン（VM）およびベア・メタル（BM）コンピュート・インスタンス上へのOracle WebLogic Server構成の迅速なプロビジョニングがサポートされ、オンプレミス・ソフトウェアとの完全互換性が確保されています。Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructureでは、既存のアプリケーションの移行、新しいアプリケーションの開発、クラウドへのデプロイが可能で、高いパフォーマンス、高可用性、セキュリティを実現しながら所有コストを抑えることができます。*

*Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud InfrastructureはOracle Cloud Marketplaceの製品一覧から入手できます。ここでは複数のエディションが用意されており、従量制とライセンスベースの両方の価格モデルがサポートされています。*

*オラクルのユニバーサル・クレジット（UCM）料金請求モデルを使用した以下のエディションは、構成別の月間OCPU利用時間に基づいて料金が請求されます。*

- *Oracle WebLogic Server Enterprise Edition for Oracle Cloud Infrastructure（UCM）では、クラスタリング、外部データベースとの統合、管理コンソールによる管理、Oracle WebLogic Scripting Tool（Oracle WLST）、REST管理APIなどのOracle WebLogic Serverの機能を使用してJava EEアプリケーションの開発とデプロイを実行できます。*
- *Oracle WebLogic Server Suite for Oracle Cloud Infrastructure（UCM）には、これらEnterprise Editionのすべての機能に加えて、Oracle Database Real Application Clusters（Oracle RAC）との統合用に最適化されたActive GridLink for RAC、およびOracle Coherence Enterprise Editionが搭載されています。*

*Bring Your Own License（BYOL）モデルを使用した以下のエディションは、該当するOracle WebLogic Serverライセンス経由でライセンスが付与されます。*

- *Oracle WebLogic Server Standard Edition for Oracle Cloud Infrastructure（BYOL）*
- *Oracle WebLogic Server Enterprise Edition for Oracle Cloud Infrastructure（BYOL）*
- *Oracle WebLogic Suite for Oracle Cloud Infrastructure（BYOL）*

## 迅速なプロビジョニング

Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructureの構成は、既存のOracle Cloudユーザー・アカウントまたは Oracle Cloud Free Tierアカウントから数分でプロビジョニングできます。

### Oracle Cloud Marketplaceの製品一覧へのアクセス

プロビジョニング・プロセスを開始するには、まずOracle Cloud Marketplace内のOracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructure製品一覧にアクセスします。Marketplaceには、Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud InfrastructureのUCMエディションとBYOLエディションにそれぞれに対応した製品一覧が表示されます。Marketplaceで特定の製品項目を選択したら、UIを操作して、そのエディション用の構成オプション詳細を選択していきます。

### 構成オプション

構成オプションでは、以下の項目を選択します。

- Oracle WebLogic Serverのバージョン：10.3.6、12.2.1.3、12.2.1.4
- Oracle Cloud Infrastructureコンピュート・シェイプ：仮想マシンおよびベア・メタルのコンピュート・シェイプ
- Oracle ADFアプリケーションの場合のJava Required Files（JRF）による構成、およびOracle WebLogic Server Java EEアプリケーションの場合の非JRF構成
- Oracle WebLogic Serverドメイン構成内のコンピュート・インスタンス（ノード）の数
- Oracle WebLogic Serverドメインの管理者のユーザー名とパスワード
- ネットワーキングのオプション
- Oracle Cloud Infrastructure Load Balancing構成（オプション）
- Oracle Identity Cloud Serviceとの統合（オプション）
- データベース・オプション（Oracle Autonomous Transaction ProcessingおよびOracle Database Cloud Serviceとの統合など）

このプロビジョニング・プロセスで表示される構成オプションについて詳しくは、
https://docs.oracle.com/en/cloud/paas/weblogic-cloud/のGet Startedのドキュメントを参照してください。

### Oracle WebLogic Serverドメイン構成の作成

UIでユーザーが選択した項目に基づいて、数分以内に適正な数のコンピュート・インスタンスがOracle Cloud内にプロビジョニングされ、適切なOracle WebLogic ServerおよびOracle JDKのバージョンがインストールされ、適切なOracle WebLogic Serverドメイン構成が作成されます。1つ目のコンピュート・インスタンス（ノード）にはドメイン用の管理サーバーと最初の管理対象サーバーがホストされます。それ以外のコンピュート・インスタンス（ノード）には他の管理対象サーバーが1台ずつホストされます。ドメインはTerraformスクリプトによってプロビジョニングされます。このTerraformスクリプトは、継続的なドメイン作成操作を自動化するために再利用できます。この時点で、Oracle Cloud内に作成されたOracle WebLogic Serverドメイン構成を、本番アプリケーションの開発、テスト、実行のために使用できる状態になっています。ユーザーはOracle WebLogic Server標準ツールに制限なくアクセスして、アプリケーション管理のライフサイクル全体で、アプリケーションの開発とデプロイ、およびドメイン構成とアプリケーション環境の監視と管理を実行できます。

## 柔軟な価格設定

Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructureにはさまざまなエディションがあり、ユーザー固有のニーズに対応して柔軟な価格オプションから選択できるようになっています。従量制とライセンスベースの価格モデルが用意されており、それぞれの価格モデル内でも幅広い権利が設定されています。

### ユニバーサル・クレジット（UCM）

Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructure UCMエディションは、オラクル・ユニバーサル・クレジットを利用した従量制の価格設定です。Oracle Cloud MarketplaceのUCM製品一覧から作成された構成は、構成の運用時のOCPU利用時間数（コンピューティング・リソース）の計測によって料金が決定されます。ユーザーは必要に応じて環境の作成、起動、停止、再開、破棄や、構成のスケールアウトとスケールインを実行できます。従量制（Pay As You Go）またはユニバーサル・クレジット月次フレックスの価格オプションは、利用したリソース分だけ料金が請求される仕組みです。
ユーザーはアプリケーション要件に基づいて、Oracle WebLogic Server Enterprise Edition for Oracle Cloud Infrastructureにするか、Oracle WebLogic Suite for Oracle Cloud Infrastructureによる追加の権利を得るかを選択できます。価格設定について詳しくは以下のリンクをご覧ください。
https://www.oracle.com/application-development/cloud-services/weblogic-for-oracle-cloud-infrastructure/pricing.html

### Bring Your Own License（BYOL）

Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructure BYOLエディションでは、Oracle WebLogic Serverのライセンスの権利（Oracle WebLogic ServerをOracle Cloud内で稼働させるために取得した既存のライセンス、または新規のライセンス）に基づいて構成を利用できます。

Oracle WebLogic Serverの主要ライセンス製品である、Oracle WebLogic Server Standard Edition、Oracle WebLogic Server Enterprise Edition、およびOracle WebLogic Suiteのそれぞれに、ライセンス内で規定された権利が付属します。この権利については、次のオラクルのライセンスに関するドキュメントで説明されています。

https://docs.oracle.com/en/middleware/fusion-middleware/fmwlc/application-server-products-newstructure.html#GUID-475E4A20-BEE9-4EC8-9CF1-DB2CBAD0EA9B

### コンピューティング・リソースの構成と料金請求

UCMエディションとBYOLエディション、およびこれらのライセンスに含まれるソフトウェアの権利については、作成した構成によって使用されるOracle Cloudコンピューティング・リソース（コンピュート・インスタンスやブロック・ストレージを含む）とは別に料金が請求されます。UCMエディションおよびBYOLエディションの使用時には、構成によって使用されるコンピュート・シェイプを柔軟に選択できます。これらのシェイプを使用して作成された基盤のコンピュート・インスタンスの使用量に応じて料金が請求されます。UCMの使用時はコンピュート・シェイプの選択によってOracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructure自体の請求額が変わり、BYOL構成の使用時にはコンピュート・シェイプの選択によってライセンス要件が変わります。コンピューティング・リソース構成を柔軟に選択できることにより、コンピューティング・リソースの管理が簡素化され、ユーザーは価格全体を適正な状態で、アプリケーションに対して適切なコンピュート能力を供給できます。

## クラウドでのアプリケーションの開発とデプロイ

Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructure構成では、オンプレミス・システム内で使用されるOracle WebLogic Serverソフトウェアと同じソフトウェアが稼働するため、ユーザーは既存のアプリケーション、スキル、ツールを使用でき、それらを長期的に発展させることができます。

### アプリケーションAPIの選択と互換性

Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructureでは、Webアプリケーション、RESTサービス、JMSアプリケーションおよびトランザクション型アプリケーション、その他のEnterprise Javaアプリケーションを構築するためにオンプレミスで使用されるOracle WebLogic ServerおよびJava Enterprise Edition（EE）のAPIと同じAPIがサポートされています。Oracle Application Development Framework（Oracle ADF）アプリケーションもサポートされています。ユーザーはOracle WebLogic Serverのバージョン10.3.6、12.2.1.3、12.2.1.4から選択し、さらにJava Required Files（JRF）ドメインか非JRFドメインかを選択します。これらのAPIとバージョンを使用してオンプレミスで開発された既存のアプリケーションであれば、変更を加えることなく、Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructure上に再デプロイできます。また、Oracle Cloudで開発されデプロイされたアプリケーションをオンプレミスに再デプロイすることも可能で、アプリケーションの開発とデプロイに関するハイブリッド型アーキテクチャを選択できるという意味で最大限の柔軟性が確保されています。

### 既存のスキルとツールの活用

既存のアプリケーションをクラウドに移行し、ビジネスの要件に応じて、既存のアプローチを使用してアプリケーションを維持したり、アプリケーションを更新したりすることが可能です。Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructureでは、オンプレミスで使用されているCI/CDプラクティス、テスト・ツール、Oracle WebLogic Server管理コンソール、Oracle WLSTスクリプト、およびREST管理APIと同じものがサポートされています。ユーザーは既存および新規のOracle WebLogic Serverアプリケーションと完全に互換性のある開発およびテスト環境をOracle Cloud内に作成できます。本番アプリケーションについてはOracle WebLogic Serverクラスタにデプロイして高可用性とパフォーマンスを確保し、必要に応じてOracle CoherenceおよびActive GridLink for RACを使用できます。

### Oracle Cloudを活用したアプリケーション管理の強化

Oracle Cloudは、長期的なアプリケーションの開発およびデプロイの運用を強化するためにも使用できます。構成を容易に作成および破棄でき、Terraformを使用してプロビジョニング操作を自動化でき、新しい料金請求および価格オプションを利用できるため、Oracle WebLogic Serverアプリケーションのライフサイクル管理の運用を最適化できます。Autonomous Transaction Processing、Oracle Database Cloud Services、Oracle Cloud Infrastructure Load Balancing Service、Oracle Identity Cloud Service、その他のOracle Application Developmentクラウド・サービスなどの他のOracle Cloudサービスとの統合によって、アプリケーションの開発および管理のための環境全体の利用と管理を最適化できます。

## まとめ

Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructureでは、柔軟な価格オプションを利用して、Oracle WebLogic Server構成を迅速にOracle Cloudにプロビジョニングできます。既存のアプリケーションとの互換性を活用することも、長期的な開発およびデプロイのプラクティスを強化することもできます。クラウドへの移行やクラウド戦略の開発に関心のあるOracle WebLogic Serverユーザーは、Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructureを今すぐ評価することをお薦めします。

## 依存関係

Oracle WebLogic Server for Oracle Cloud Infrastructureは以下のOracle Cloudサービスに依存しています。

Oracle Cloud Infrastructure Compute：

- コンピュート・インスタンスについては別途料金が請求されます。

Oracle Cloud Infrastructure Block Storage：

- ブロック・ストレージについては別途料金が請求されます。

Oracle Cloud Infrastructure Key ManagementまたはOracle Cloud Infrastructure Key Management Virtual Vault

- 鍵管理については別途料金が請求されます。

Oracle Cloud Database Services（オプション）：

- JRFドメインの場合は必須
- 非JRFドメインの場合でも通常は利用
- Autonomous Transaction Processing
- Oracle Database Cloud Services

Oracle Cloud Infrastructure Load Balancing（オプション）

Oracle Identity Cloud Service（オプション）

## サポート対象のバージョンと構成

| | |
|---|---|
| Oracle WebLogic Server Versions | • 10.3.6<br>• 12.2.1.3<br>• 12.2.1.4 |
| Java EE Versions | • Java EE 5 (Oracle WebLogic Server 10.3.6)<br>• Java EE 7 (Oracle WebLogic Server 12.2.1.X) |
| Java Required Files (JRF) | • JRF domains<br>• Non-JRF domains |
| Java SE Versions | • Java SE 7 (Oracle WebLogic Server 10.3.6)<br>• Java SE 8 (Oracle WebLogic Server 12.2.1.X) |
| Oracle Cloud Compute Shapes | • Virtual Machines (VM) instances<br>• Bare Metal (BM) instances |

## お問い合わせ先

Oracle WebLogic Serverについて、詳しくはoracle.comを参照するか、

+1.800.ORACLE1でオラクルの担当者にお問い合わせください。

Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment

Copyright © 2020, Oracle and/or its affiliates.All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。 オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracleは米国Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。